



木星

木星は、太陽に近い方から5番目の惑星です。

大きさ、重さとも太陽系で最大の惑星です。

所々に丸い模様が見られますが、これは、大気が渦になっている所です。一番大きな渦は大赤斑と呼ばれていて、1665年にカッシーニが木星を望遠鏡で見た時には既に存在していて、そのあともずっと350年間も存在し続けていると思われています。地球の大気の渦である台風が2週間くらいで消える事を考えると、どうしてこれほど長期間続くのかは謎で、まだ十分に解明されていません。

コンテンツ作成: Dagik Team

データ提供: 木星画像: NASA/JPL-Caltech http://photojournal.jpl.nasa.gov/

コンテンツ説明: http://dagik.org/P/7

手作り地球儀のつくり方:帯型シート(直径 7.5cm)

- 準備するもの・

- ・直径 7.5cm の球(ガチャガチャカプセルや発泡スチロール球など)
- ・印刷する紙 (再剥離タイプのノーカットラベルシートがお勧め)
- カラープリンター(インクジェット式の方が色が剥がれずにきれいに作れます)
- カッターと定規 (あるいはハサミでも)
- ・スプーンなど硬いもの(貼り付けた後で、シワを伸ばすのに使います)

必要に応じて:

- ・のり (ラベルシートではなく普通紙に印刷する場合は必要)
- ・磁石や重り(ガチャガチャカプセルの場合はカプセルの中に磁石や重りを入れられます. 発泡スチロール球の場合は、穴を開けて埋め込むことができます.)

(印刷する)

(1) 拡大縮小をせずに 100% のサイズで印刷します。(画像が印刷されている帯の両端付近の線の間の長さが 23.5cm くらいに印刷されます。)

(切る)

(2) オレンジの線(灰色と画像の境界ではなく)でまっすぐに切り取り、6本の帯にします.

(貼る)

- (3) 数字の順番に貼ります、まずは①の帯を貼りましょう.
- (4) カブセル球の線と、型紙の赤道の線を合わせて貼ります。数字が書いてある所を下に重ねるよう、南極等の・マーク(黒点)も目印にしながら貼ります。
- (5) 球を両手で軽く握り、紙①をなじませます。
- (6)次の②の帯を①の右側に貼ります。向きに注意してください。少しずつ重なるようになっていますので、赤道の短いたて線マーク→を重ねてください。
- (7) あとは同じように繰り返し線や画像ができるだけずれないように重ねて貼り合わせましょう.

(シワを伸ばす)

(8) 貼り付けた帯がよれて、シワになっている部分を、スプーンの背中(丸い方)でこすって 伸ばし、平らにしてください、全ての帯を貼ってからこすっても良いですし、1枚の帯を 貼るごとにこすっても良いです。













